

## 過去の研究発表・報告の題目

---

本学会の過去の研究発表・報告の題目を以下にまとめました。なお、1973年は当番校の都合により、学会は開催されませんでした（文責：左藤正範）。

第1回（1969年）：研究発表なし。

第2回（1970年）：

1. 佐藤栄三郎「インドネシア学会発足にあたって」
2. Anas Ma'ruf: Kesusastraan Indonesia Sesudah Perang.
3. 伊東定典「バンテンと VOC」
4. 森村 蕃「Salah Pilih に於ける adat をめぐる抗争の問題」
5. 佐々木重次「hendak (mau, ingin)+活用形をめぐって」
6. 鞆屋征士「インドネシアでの日本語教育」
7. K・S・スディアルタ「インドネシア語文法概説<接頭辞 me, ber と基本文型>」

第3回（1971年）：

1. Anas Ma'ruf: Pembabakan Sedjarah Sastra Modern Indonesia.
2. 伊東定典「バタック部族回教・キリスト教伝来小史」
3. 倉田 勇「血縁原理補足の実態について<スマトラ・ミナンカバウ社会事例考察>」
4. 崎山 理「インドネシア語の二種の『二重主語文』」
5. 渋沢元則「Itinerario における接続詞 ende について」

第4回（1972年）：

1. 佐藤栄三郎「インドネシア語文字改革に関する一私見」
2. K・S・スディアルタ「接頭辞 di について」
3. 倉田 勇「インドネシアの相続慣行<レジャン社会とバタック社会の場合>」
4. 森村 蕃「インドネシア語・マレー語にみるアラビア語受動分詞からの借用語のいくつかの特徴」
5. 松岡邦夫「インドネシア語の語順について」

第5回（1974年）：

1. 正保 勇「副詞節を作る名詞起源の接続詞」
2. 倉田 勇「慣習の意味」
3. 佐々木重次「助動詞論に見る能動論者と受動論者」
4. 崎山 理「比較言語学的に見たインドネシア語の“twee wijzers”」
5. Muskarna Sastranegara: Sejarah Ejaan Bahasa Indonesia.

第6回（1975年）：

1. 倉田 勇「バリ島バトール湖周辺の方位観」
2. 佐々木重次「BER-動詞について」
3. 正保 勇「インドネシア語の分裂文」
4. Ito Seki: Beberapa Soal Mengenai Kalimat-Kalimat Kata Kerja Transitip Dalam Bahasa Indonesia.
5. 宮坂正昭「スーフィー文学の役割——東南アジアにおける初期のイスラーム化（パサイーマラッカ—ジャワ北部沿岸）と関連して——」

第7回（1976年）：

1. 佐々木重次「BER- と KE-AN の説明に用いた円について」
2. 左藤正範「インドネシア語の出発点について」
3. K・S・スディアルタ「接尾辞 LAH について」
4. 関 伊統「インドネシア語文の一特性 (ini, itu, nya の用例から)」
5. 正保 勇「インドネシア語の複合名詞句に関する一考察」
6. Toerseno A.S.: Peresapan Bahasa Jawa ke dalam Bahasa Nasional.
7. Toerseno A.S.: Kumpulan Kata-Kata Bahasa Indonesia yang mengutamakan Kata Pinjaman dari Bahasa Jawa.

第8回 (1977年) :

1. 佐々木重次「人称代名詞の体系の吟味」
2. 森村 蕃「khattulistiwa という語について」
3. M.Z. Asry: Mengenai Hubungan Ekonomi, Kebudayaan & Pendidikan Indonesia-Jepang Dewasa Ini.
4. 倉田 勇「事例からみた共同飲食の意義について」
5. 相馬幸雄「インドネシアに於ける稲作神話に関する一考察」
6. 伊東定典「蘭印農地法とジャワ農民一揆」
7. Anas Ma'ruf: Sekedar Perbandingan Kalimat Tanya Indonesia dengan Kalimat Tanya Jepang.
8. 正保 勇「pun と juga に関する一考察」
9. 佐藤栄三郎「インドネシア語とアラビア語の語の構成に関する比較について」
10. 粕谷俊樹「日本文学のインドネシア語翻訳に於ける諸問題」

11. 関 伊統「インドネシア語の情感表現」

第9回（1978年）：

1. 佐々木重次「インドネシア語のカナ表記」
2. 崎山 理「『二重主語文』その後（日伊対照言語学から）」
3. 正保 勇「インドネシア語における上昇変形」
4. 左藤正範「日本軍政の言語政策——ジャワ島の学校教育を中心として——」
5. 伊東定典「ジャワ・スーフイズムの系譜（19世紀まで）」
6. Toerseno A.S.: Kedudukan Bahasa Daerah Sebagai Sakaguru Kebudayaan Tradisional.
7. 関 伊統「日本語<は>・<が>とインドネシア語」

第10回（1979年）：

1. 松岡邦夫「インドネシア語母音の発音について」
2. 富尾武弘「インドネシアの社会構造について」
3. Anas Ma'ruf: ENKLITIK “NYA” yang banyak menolong tetapi terkadang dianggap serakah.
4. 倉田 勇「出稼ぎと教育」
5. 佐々木重次「Sonia membantah bahwa —『ト』と『ヲ』—」
6. 正保 勇「インドネシア語に於ける主題化と移動変形」
7. 左藤正範「インドネシア語委員会について」
8. Ajip Rosidi: Mengenang Almarhum Anas Ma'ruf.
9. 崎山 理「Tense and Aspect in Indonesian」

第 11 回 (1980 年) :

1. 伊東定典「Dewan Gereja-Gereja di Indonesia インドネシア教会協議会」
2. 鞆屋征士「インドネシア語の格について」
3. 正保 勇「インドネシア語の代名詞と補文主語の解釈規則」
4. 佐々木重次「Topic/Comment 系の分析の問題点」
5. 鞆屋征士「インドネシア語の格について」
6. 粕谷俊樹「『雪国』の翻訳について」
7. 富尾武弘「Indonesian Trade and Society: Essays and Economic History by J.C. van Leur」

第 12 回 (1981 年) :

1. 倉田 勇「不連続な時について<インドネシアの事例から>」
2. 佐々木重次「『主格補足語』について」
3. Ajip Rosidi: Kedaerahan dalam Keindonesiaan.
4. 富尾武弘「狼牙須国(Langkasuka)について」
5. 左藤正範「日本軍政の教育政策——インドネシアの『海軍地域』の例——」
6. 正保 勇「インドネシア語の Identity-Deletion」
7. 山口真佐夫「インドネシア語の数詞について——tiga, tujuh, 減数法——」
8. 藤田泰伸「ルピア切下げとインドネシア経済」
9. 関 伊統「Sejarah Melayu の me-型, φ 型, di-型」
10. 宇坪直子「ジャワの養魚について」

第13回（1982年）：

1. 藤田泰伸「エコノミー・パンチャシラ論争をめぐって」
2. 佐久間徹「神話伝承に現われる『植物のしおれ』モチーフについて」
3. 倉田 勇「東スンバ社会の通過儀礼についての若干の考察」
4. Soedi R. Hasan: Sekilas tentang Bahasa Mandar—Salah satu bahasa daerah di Sulawesi Selatan.
5. 正保 勇「インドネシア語の一照応現象について」
6. 佐々木重次「MEMPER- について」
7. 富尾武弘「〔書評〕土屋健治著『インドネシア民族主義研究』」
8. 左藤正範「日本軍政の言語・教育政策——ジャワの“Kan Po”（官報）を手がかりとして——」

第14回（1983年）：

1. 正保 勇「itu と ?nya に関する一考察」
2. 佐々木重次「PASSIVE USED WHEN---
3. 富尾武弘「デサの基本的認識——王国世界と人民世界の接点を求めて——」
4. 佐久間徹「植物と人間——南スラウェシにおける事例——」

第15回（1984年）：

1. 左藤正範「スマトラにおける日本軍政の言語・教育政策」
2. 正保 勇「倒置構文に関する一考察」
3. Toerseno A.S.: Sekilas Tentang Peresapan Bahasa Daerah Dan Bahasa Asing Dalam Kaitannya Dengan Sumpah Pemuda.

4. Wing Karjo: Eksistensialisme di Indonesia.
5. Ajip Rosidi: Mencari Jejak H. Hasan Mustapa.
6. 佐々木重次「Gonda 論文 “Reflections on the Indo-European medium” を読んで」
7. 倉田 勇「世襲財(Harto Pusako)について—Franz von Benda-Beckmann の所説に学びつつ—」
8. 松野明久「願望の untuk—untuk+動詞について」

第 16 回 (1985 年) :

1. 正保 勇「インドネシア語の受動構文と能格構文」
2. 佐々木重次「TER- 動詞の<能動的>構文について」
3. 藤田泰伸「インドネシアの演劇—発展と上演形態を中心として—」
4. 左藤正範「インドネシアの刊行物にみる日本語」
5. 倉田 勇「パナス・ディギン論」
6. 富尾武弘「マタラム朝マングブミの治世」
7. 中嶋鴻毅「インドネシア語母音の音響音声学的考察」

第 17 回 (1986 年) :

1. 倉田 勇「スンバの通過儀礼 (その二) —葬式」
2. 山口真佐夫「南スラウェシの言語—Massenrempulu 諸語の位置づけ—」
3. 正保 勇「追加付加詞と追加接合詞に関する一考察」
4. 富尾武弘「インドネシアの仏教—その連続性を求めて」
5. 石井和子「『聖大乘論』 (サン・ヒアン・カマハーヤーニカン) 」におけるジャワ密教の成就法と神学」

6. 佐々木重次「『したい』か『されたい』か——その後——」
7. 藤田泰伸「ハッタの協同組合思想」
8. Ajip Rosidi: Manifes Kebudayaan & K.K.P.I.

第18回（1987年）：

1. 富尾武弘「訶陵国の中国遣使年代について」
2. 佐々木重次「akan について」
3. 正保 勇「untuk 構文の PRO の解釈」
4. 石井和子「古ジャワ『サン・ヒアン・カマハーヤーナン・マントラナヤ（聖真言道大乘）』」
5. Ajip Rosidi: Nuguroho Notosusanto dan “Angkatan Terbaru” Sasterawan Indonesia.
6. 山口真佐夫「ブギス語 Sawitto/Pinrang 方言について」
7. 藤田泰伸「ハッタとスカルノの経済思想比較」
8. Wing Kardjo: Penerjemahan Puisi dengan Masalah-Masalahnya.

第19回（1988年）：

1. 左藤正範「日本軍政に関するインドネシアの百科事典の記述」
2. 富尾武弘「Mataram 王朝初期」
3. 倉田 勇「スンバ人の死と再生観」
4. 山本春樹「バタック族の宿命観について」
5. 松野明久「情報といわゆる受動」
6. 正保 勇「EXE を主語にとる構文とその特徴」
7. 粕谷俊樹「『語彙』から見たマレーシア語とインドネシア語」

8. 松浦健二「日本語—インドネシア語表現上の比較—擬声語・擬音語・擬態語について—」
9. 佐々木重次「第5回インドネシア語会議に出席して」
10. Ajip Rosidi: Situasi Sastra dan Penerbitan Bahasa Sunda.

第20回（1989年）：

1. 山口真佐夫「南スラウェシの諸言語の西と東」
2. 正保 勇「インドネシア語の指示現象に関する一考察」
3. 佐々木重次「me- 形といわゆる受動形をどう使いわけなのか」
4. 藤田泰伸「インドネシアの協同組合思想」
5. 富尾武弘「ガルー王国について」
6. 倉田 勇「織布の霊的屬性について—Minangkabau 社会の父方親族の場合—」
7. 左藤正範「インドネシアの辞書に見られる日本語の語彙」
8. Wing Kardjo: Jalan sempit ke kedalaman utara.
9. 松野明久「bukan と tidak—不定辞の用法—」

第21回（1990年）：

1. 左藤正範「インドネシアの辞書に見られる日本語語源の見出し語とその派生語について」
2. 富尾武弘「ガルー王国考補遺—婆露伽斯考—」
3. M. Soeratno: Kalimat Baku Bahasa Indonesia.
4. 粕谷俊樹「語彙から見たマレーシア語とインドネシア語（その二）」
5. 倉田 勇「Minangkabau 社会の階層性について」
6. 石井和子「ボロブドゥールと『初会金剛頂経』」

7. 小野澤純「マレーシア語からみたマレーシア語とインドネシア語の語彙の比較」
8. 正保 勇「マレーシア語の受動構文」
9. 福島弘恵「スジャラ・ムラユの船の種類に関する語彙」
10. 藤田泰伸「インドネシアの協同組合政策」
11. 浦野崇央「インドネシアの社会」

第 22 回 (1991 年) :

1. 倉田 勇「共通コード時間と地域の時間——インドネシアの事例から——」
2. 富尾武弘「宋代における三仏齊中国遣使記録」
3. 左藤正範「インドネシアのテキストに出ている日本語語源の語彙について」
4. 山口真佐夫「インドネシア語マカサル方言」
5. 高殿良博「インドネシアにおける二言語併用教育」
6. 舟田京子「Bahasa Prokem」
7. 正保 勇「倒置文について」

第 23 回 (1992 年) :

1. 正保 勇「マレーシア語の変項」
2. Tooru Nomura: Pengetahuan Bahasa Melayu Terhadap Orang Jepun Dalam Zaman Edo.
3. 左藤正範「インドネシアの教科書におけるロームシャの意味について」
4. 佐藤弘幸「『マックス・ハーフェラール』の邦訳をめぐって」
5. 浦野崇央「Pop Indonesia にみる愛の型」

6. Wing Kardjo: Puitik Sitor Situmorang: Antara Keasingan Dan Keterlibatan.
7. 富尾武弘「10～11世紀のスリウィジャヤ」
8. 藤田泰伸「西部ジャワにおける KUD の社会的意義」
9. 倉田 勇「東インドネシアの家と霊」
10. K・S・スディアルタ「Keratabasa」

第 24 回 (1993 年) :

<シンポジウム> 「日本におけるインドネシア語／マレーシア語教育の諸問題」

全体的基調報告 (スディアルタ)

第 1 セッション「発話・聴き取り教育について」

報告 (舟田京子) ; コメント (柄屋征士) ; 司会 (粕谷俊樹)

第 2 セッション「教材について」

報告 (左藤正範) ; コメント (正保 勇) ; 司会 (森村 蕃)

第 3 セッション「購読・作文教育について」

報告 (石井和子) ; コメント (相馬幸雄) ; 司会 (小野沢純)

第 4 セッション「文法教育について」

報告 (松野明久) ; コメント (山口真佐夫) ; 司会 (佐々木重次)

<自由研究発表>

1. 福島弘恵「アラビア語からの借用語——インドネシア語とマレーシア語との相違——」
2. 左藤正範「インドネシアの小学校の教科書における日本語起源の語彙について」
3. 富尾武弘「5世紀を中心としたインドネシアの状況」

第 25 回（1994 年）：

1. 福島弘恵「インドネシア語に入った？ター・マルブータ」
2. 降幡正志「スンダ語の後置詞 mah 及び teh」
3. 佐藤宏文「マレーシアの言語政策」
4. 野村 亨「シンガポールにおける地名の起源」
5. 藤田泰伸「KUD とインドネシアの農村」
6. 山口真佐夫「インドネシア語ウジュン・パンダン方言について」
7. 浦野崇央「日本人の描くインドネシア——戦後期滞在記からの考察——」
8. 左藤正範「インドネシア語の辞書における日本語起源の語彙について」
9. 安田和彦「インドネシア語と日本語教育からみた『インドネシア語の受動態』」
10. 正保 勇「受動文と主題—題述文」

<シンポジウム> 「インドネシア語の受動態に関するシンポジウム」

発表 1 森村 蕃「インドネシア語の受動態形式に関する一考察」

発表 2 佐々木重次「能動論者として」

発表 3 松岡邦夫「インドネシア語の従来受動態とその問題点」

第 26 回（1995 年）：

1. Yoshihiro Takadono: Penelitian Kontrastif Tentang Formula Ungkapan Salam Dalam Kebudayaan Indonesia Dan Kebudayaan Jepang—Difokuskan Pada Perilaku Salam Di Kalangan Mahasiswa—.
2. 浦野崇央「インドネシアにおける外国語使用に対する政府規制とその反応」
3. 安田和彦「インドネシア語の主語について」

4. 川地智子「インドネシア語の無接頭辞動詞文の統語構造について」
5. 福島弘恵「インドネシア語におけるアラビア語源の借用語の接辞について」
6. 山口真佐夫「南スラウェシのママジュ語における系統研究試論」
7. Uga Perceka: Pandangan Orang Jepang Terhadap Orang, Negeri Dan Bahasa Indonesia (I).
8. 富尾武弘「インドネシアの交易品」
9. 正保 勇「二種類の連体修飾構造」
10. 中嶋鴻毅「インドネシア語ウジュンパンダン方言の母音の音響的分析」
11. 野村 亨「シンガポールにおける都市交通の発達について」
12. 山口玲子「インドネシア国立ハサヌディン大学大学院修士課程について——インドネシア語専攻科の場合——」（報告）

第 27 回（1996 年）：

1. 山口真佐夫「南スラウェシ語群の言語における接頭辞 (m)VN- と(m)VK-」
2. 安田和彦「インドネシア語における時の接続詞に導かれた従属節中の主語の省略」
3. 高殿良博「あいさつにおける非言語行動の日本とインドネシアの比較」
4. 降幡正志「スンダ語の / ? / と / ? / に関する音響音声学的研究」
5. 倉田 勇「インドネシアのイエ研究の可能性——ミナンカバウ社会の場合——」
6. 左藤正範「マレー語の辞書における日本語起源の語彙について」
7. 正保 勇「マレーシア語の動詞句の補文」
8. 佐々木重次「インドネシア語教育と電子メディアの利用」

第 28 回（1997 年）：

1. Anwar Ridhwan: Protagonis Pradata: Teori Tempatan, Behaviorisme Dan Islam.
2. Imran T. Abdullah: Sistem Bunyi Dalam Bahasa Aceh.
3. 降幡正志 「スンダ語の母音 / ? / と / ? / の解釈」
4. Sheddy Nagara Tjandra 「インドネシア語のテンスとアスペクトの問題」
5. 安田和彦 「続・インドネシア語における時の接続詞に導かれた従属節中の主語の省略」
6. 左藤正範 「インドネシアの中学校の歴史教科書における日本語起源の語彙について—1984～93年と1994～97年の二期間におけ比較—」
7. 福島弘恵 「ヒカヤット・ハン・トゥアのアラビア語」
8. Edy Priyono: Tinjauan Iklan di Radio Indonesia dan Jepang—Difokuskan pada Aspek Sosial Budaya—.
9. 富尾武弘 「ボロブドゥール寺院について—マンダラからストゥーパへ—」
10. 浦野崇央 「戦前期滞在記にみるインドネシア・イメージ」
11. 正保 勇 「マレーシア語におけるピボット動詞」
12. 倉田 勇 「バドイ人の色彩感覚（予備的考察）」

第29回（1998年）：

1. 勝西紀之 「sini/situ/sana の前方照応機能」
2. Edy Priyono: Tinjauan Kalimat Iklan Produk Jepang di Media Cetak Indonesia—Dengan Fokus pada Tinjauan Diksi—.
3. Yoshihiro Takadono: Penggunaan Permintaan Maaf dalam Bahasa Jepang dan Bahasa Indonesia: Suatu Perbandingan.
4. Sheddy Nagara Tjandra: Teori Penerjemahan Ekuivalen—Pragmatis untuk Bahasa Jepang-Indonesia.

5. Eugenius Sadtono: Tantangan Pengajaran Bahasa Indonesia sebagai Bahasa Asing, Khususnya di Indonesia.
6. 野村 亨「蘭領東インド東ジャワ地域における軽便鉄道の発達——OJS を中心として——」
7. Imran T. Abdullah: Pemakaian Kata Ganti Orang dalam Bahasa Aceh dalam Hubungannya dengan Bahasa Indonesia.
8. Stephanus Djawanai: The Classifier System of Ngandha Language: an ethnolinguistic perspective.
9. 佐々木重次「Sanggar Bahasa Indonesia について」
10. Anwar Ridhwan: MABBIM: Penubahan, Objektif dan Perkembangan.
11. 石井和子「パンチャシラの第一原則『唯一なる神性』について」
12. 降幡正志「スンダ語の鼻音化現象について」
13. 関 昌也「インドネシア語の自然態」 (報告)
14. 富尾武弘「インドネシア・イスラム化問題と鄭和の大遠征」 (報告)

第 30 回 (1999 年) :

1. Eugenius Sadtono: Adat Perkawinan Jawa.
2. 倉田 勇「出自・居住・墓地」
3. Edy Priyono: Tinjauan tentang Singkatan dan Akronim Pelesetan dalam Bahasa Indonesia.
4. 富尾武弘「スマトラ (蘇門答刺) なる呼称について」
5. 原真由子「インドネシアにおける『地方語』教育の現状——バリの事例——」
6. 小野澤純「『アブドゥラ航海記』再考」

7. 関 昌也「文表現にみるインドネシア語の自然態」
8. 大形里美「インドネシアにおけるイスラーム的フェミニズムの動向」

<第30回大会記念特別講演>

Ayu Utami: Problem Modernitas dalam Sastra dan Masyarakat Indonesia.

第31回(2000年) :

1. I Made Markus: Pengajaran Bahasa Daerah di Daerahnya: Khususnya Bahasa Bali.
2. Eugenius Sadtono: Bahasa Indonesia Tidak Pernah Murni: Studi kecil tentang pengaruh bahasa Inggris dalam bahasa Indonesia.
3. 山口真佐夫「アラッレ・タブラハン(Aralle-Tabulahan)語の系統」
4. Abdul Muthalib: Beberapa Catatan Mengenai Bahasa Aralle-Tabulahan dan Pitu Ulunna Salu di Sulawesi Selatan.
5. 中嶋鴻毅「インドネシア南スラウェシ地域諸言語の音声データベースの構築と母音の音響分析(アラッレ語、マンビ語、パンネイ語について)」
6. Mohammad Syakir: Sumbangan Pers dalam Pengembangan Sastra Indonesia.
7. Yoshihiro Takadono: Cerminan Penyingkapan Diri dalam Bahasa Jepang dan Bahasa Indonesia: Perbandingan di Kalangan Mahasiswa.
8. 福島弘恵「スジャラ・ムラユ—Tun Ali Hati の死からの伝本—」
9. Edy Priyono: Tinjauan tentang Singkatan dalam Iklan di Surat Kabar: Khususnya Iklan Mini.
10. 富尾武弘「ジャワへの元寇について—丹羽友三郎氏の研究を中心に—」
11. 安田和彦「インドネシア語のゼロ代名詞の用法について」
12. 勝西紀之「インドネシア語におけるアスペクト」

13. 関 昌也「インドネシア語の自動詞にみる『する』と『なる』」

14. Ajip Rosidi: Ensiklopedi Sunda.

第 32 回 (2001 年) :

1. 舟田京子「インドネシアにおける独立後の言語状況と MBIM—綴りを中心に—」

2. Edy Priyono: Tinjauan tentang Eufemisme, Sensasionalisme, dan Vulgarisme di Media Cetak.

3. 倉田 勇「Mentawai 社会の Punen について」

4. 中嶋鴻毅「インドネシア南スラウェシ地域諸言語の音声データベースの構築と母音の音響分析(II) (ピトゥ・ウルンナ・サル語マタンガ方言, バンバン方言およびアラッレ・タブラハン語タブラハン方言について)」

5. 山口真佐夫「南スラウェシ州マムジュ県のカイリ・パモナ語群の少数言語—トポイヨ語、バラス語、サルドゥ語の系統—」

6. 森村 蕃「アラビア語動詞第二形の動名詞を作る接頭辞 ? ta の要素」

7. 左藤正範「Kamus Besar III に見られる日本語起源の語彙について」

8. 福島弘恵「ジャカルタ方言」

9. 平林輝雄「メナド在住華人のコード選択」

10. 安田和彦「インドネシア語代用表現」

11. 磯浦美恵子「パダンにおける日本語教育」 (報告)

12. 富尾武弘「バリ・ジョクジャカルタ調査報告(2001 年 8 月)」 (報告)

第 33 回 (2002 年) :

1. 倉田 勇「Minangkabau 社会変容の一側面～特に親族関係について～」

2. 関 昌也「インドネシア語の無為動詞（その1）——日本語の動詞との対比——」

「インドネシア語の無為動詞（その2）——接頭辞 *ter-*型および接頭・接尾辞 *ke-an* 型」

3. 森村 蕃「アラビア語動詞第五形及び第六形の動名詞に由来する語」
4. Edy Priyono: *Tinjauan tentang Cant dalam Media Cetak Indonesia.*
5. 左藤正範「日本語の辞書に見られるマレー語・インドネシア語起源の語彙について」
6. 山口真佐夫「南スラウェシ州のタンコウ語の研究」
7. 安田和彦「インドネシア語の三人称指示代名詞“*dirinya*”について」
8. 福島弘恵「スジャラ・ムラユの *ke-an*」
9. 正保 勇「*Adalah* と *Ialah* に関する一考察」
10. 小座野八光「インドネシアにおける日本占領の東南アジア他地域との対比」
11. 佐々木重次「最新インドネシア語小辞典——パソコンを利用する辞書編纂のノウハウ——」（報告）
12. 富尾武弘「海のシルクロードのひとつま」（報告）
13. 小野沢純「世界の主要大学におけるマレー・インドネシア語教育事情～MABMに参加して～」（報告）

第34回（2003年）：

1. 粕谷俊樹；エディ・プリヨノ；浦野崇央；若林聡子「日本語からマレー語への翻訳はいかに行われてきたか」
2. 左藤正範「『広辞苑』に見られるマレー語・インドネシア語起源の語彙について」
3. 関 昌也「インドネシア語の‘する’動詞・*me-*型と *di-*型の並存競合関係について」

4. Edy Priyono: Tinjauan tentang Iklan Layanan Masyarakat di Media Cetak Indonesia: Khususnya di Majalah TEMPO (2000-2003).
5. 浦野崇央「携帯メール（SMS）における表現法」
6. 山口真佐夫「ランピ（Rampi）語の研究」
7. Totok Suhardijanto: Pengajaran Tata Bahasa Indonesia kepada Penutur Jepang.
8. 大形里美「インドネシアにおける女性法学議論」
9. 安田和彦「知覚・思考を表わす動詞の形態とその機能」
10. Ariyanto: Sistem Tanda dalam Komunikasi Verbal.
11. 勝西紀之「インドネシア語の継続相」
12. 富尾武弘「海のシルクロード：その(2)～鑑真随行者崑崙国人軍法力～」 （報告）

第 35 回（2004 年）：

1. 関 昌也「前稿『インドネシア語の‘する’動詞・me-型と di-型の並存競合関係について』の補遺『あれこれ』」
2. 山口真佐夫「マッセンレンプル（Massenrempulu）語の系統」
3. Edy Priyono: Tinjauan tentang Kartun Editorial di Media Cetak Indonesia: Khususnya di Majalah TEMPO (2003-2004)
4. 原真由子「多元的語彙特性パラメータ導入によるインドネシア語彙教育研究の展開」
5. 近藤由美「インドネシア語検定の実情」
6. 大形里美「イスラーム女性法学とイスラーム・リベラル」
7. 松野明久「テトゥン語研究の現状について」
8. 磯浦美恵子「インドネシアでの日本語教育を終えて」

9. 倉田 勇「Tepong Tawar と柳田国男」
10. 山本春樹「バタックの宗教」
11. 富尾武弘「中部・西部ジャワ遺跡調査報告（2004年8月）」（報告）

第36回（2005年）：

1. 山口真佐夫「言語集団としてのパッタエ（Pattae）」
2. Zainuddin Hakim: Sekilas tentang Afiks Pembentuk Verba dalam Bahasa Mamasa.
3. Edy Priyono: Tinjauan tentang ILM di Media Cetak Indonesia dan Jepang.
4. 安田和彦「meN-動詞の目的語となる従属節に現れる動詞+nya について」
5. 左藤正範「インドネシアの中学校の歴史教科書に見られる日本語起源の語彙の比較研究」
6. 関 昌也「能動態・受動態と自然態」
7. Toerseno A.S.: Interferensi Bahasa Daerah dalam Media Massa Berbahasa Indonesia.
8. 中嶋鴻毅「南スラウェシ語群北方下位語群の言語（マッセンレンプル語）の音声データベース構築」
9. Sudiby: Tuan dan Liyan: Raffles di Mata Abdullah Bin Abdulkadir Munsyi.
10. 大形里美「インドネシアにおけるイスラームと宗教的寛容性」
11. 正保 勇「マレーシア語のCOD構文」
12. 富尾武弘「ジャワ元寇補遺——元寇後の爪哇・元朝交渉中の一問題点——」（報告）

第37回（2006年）：

1. Widodo Hs.: Tutorial Model for Indonesian Language Instruction for Foreign Learners (BIPA).

2. Edy Priyono: Sebuah Tinjauan tentang Artikel CSR di Media Cetak Indonesia: Khususnya di Majalah TEMPO (2003–2006).
3. Bambang Rudyanto 「インドネシアの防災専門用語——日本と比較して」
4. Savitri Elias: Tingkat Kesulitan Membedakan Bunyi dalam Kata Bahasa Indonesia: Tinjauan terhadap Penutur Bahasa Jepang.
5. Totok Suhardijanto: Motivasi Internal dan Eksternal dan Hubungannya dengan Harapan Pemelajar: Studi tentang Motivasi Belajar Bahasa Indonesia pada Mahasiswa Jepang.
6. Dwi Puspitorini: Kedudukan Bahasa Jawa Dewasa ini.
7. 左藤正範 「インドネシア語の主要な辞書に見られる日本語起源の語彙について」
8. 山口真佐夫 「タエ (Tae) 語とその周辺の言語の系統関係」
9. 安田和彦 「untuk に導かれる副詞節における主語の代名詞化について」
10. 浦野崇央 「日本におけるインドネシア地域研究」
11. 竹下 愛 「『アジアン・ヒーロー』イワン・ファルスの起源——都市周縁部の若者層にみるカリスマシンガーの受容と消費——」
12. 柏村彰夫 「地方自治体のインベントリ——法令を中心として——」
13. Untung Yuwono: Pengajaran Sastra Indonesia bagi Pemelajar BIPA: Sekedar Membagi Pengalaman Mengajar BIPA di TUFS, Jepang dengan Metode Lintas Bahasa?Sastra.
14. Dendy Sugono: Pembelajaran Bahasa Indonesia untuk Penutur Asing Lintas Kurikulum.
15. 森山幹弘 「新しいインドネシア語教育の可能性」
16. 富尾武弘 「マライ世界とマダガスカルの交流～崑崙層期国考～」 (報告)

17. 関 昌也「インドネシア語の自然態の視点——インドネシア語の jadi の意味について——」（報告）

第 38 回（2007 年）：

<テーマ発表> 「インドネシア語教育の諸問題」

趣旨説明（青山 亨）

発表 1 Henri Daros: Menimbang Pola Pembelajaran Percakapan Bahasa Indonesia Yang Efektif: Tantangan dan Pengalaman Membimbing Kelas Penutur Bahasa Jepang.

発表 2 柏村彰夫「初級学習者の誤答について」

発表 3 原真由子；降幡正志「聴覚実験音声学的調査がもたらす知見の発音教育についての含意」

発表 4 Dendy Sugono: Pengembangan Pembelajaran Bahasa Indonesia untuk Penutur Asing.

<自由研究発表>

1. 左藤正範「インドネシアの小学校の教科書に見られる日本語起源の語彙の比較研究」
2. Edy Priyono: Sebuah Tinjauan tentang Iklan CSR di Media Cetak Jepang dan Indonesia.
3. 大形里美「インドネシアにおけるイスラム教義の理解と実践に関する実証研究——アンケート結果の分析（その 1）」
4. 安田和彦「untuk に導かれる形容詞節の類型と主語の代名詞化について」
5. Totok Suhardijanto: Pergeseran dari Bahasa Jawa ke Bahasa Indonesia pada Keluarga Kelas Menengah di Beberapa Kota di Jawa: Sebuah Kajian Awal tentang Bahasa dan Identitas.

第 39 回（2008 年）：

<テーマ発表> 「インドネシア語教育の実践」

趣旨説明（青山 亨）

発表 1 Totok Suhardijanto: Kamus Elektronik sebagai Penunjang Pembelajaran Bahasa Indonesia: Pemanfaatan Stemming untuk Meningkatkan Kemudahan Penggunaan Kamus Elektronik.

発表 2 安田和彦「インドネシアのテレビ録画映像の活用について」

発表 3 Suhandano: Preposisi dan Afiks pada Verba dalam Bahasa Indonesia.

<自由研究発表>

1. 末延俊生: Pelepasan Preposisi pada Konstruksi Frasa Preposisional Lokatif dan Temporal dalam Bahasa Indonesia.
2. 長南一豪「インドネシア語心理動詞のカスケード構造」
3. 吉久晶子「小説『ラウマネン(Raumanen)』に見る近代インドネシアの国家、民族、神の位置」
4. Edy Priyono: Sebuah Tinjauan tentang Singkatan di Majalah Bisnis Jepang dan Indonesia.

第 40 回（2009 年）：

<テーマ発表> 「ポスト・スハルト期インドネシアにおける言語状況の変化」

趣旨説明（森山幹弘）

発表 1 塩原朝子「東部インドネシアの言語状況——地方語の光と影——」

発表 2 内海敦子「北スラウェシ州における多言語状態とマナド方言の威信と活力」

発表 3 津田浩司「ポスト・スハルト期インドネシアにおける華人と中国語——地方都市における中国語学習ブームを手がかりに——」

発表4 北村由美「ジャカルタの『言語景観』にみられる中国語使用と華人」

<自由研究発表>

1. Edy Priyono: Meninjau Tren Baru lewat Singkatan Asing Kontemporer di Media Cetak Indonesia dan Jepang.
2. Sri Budi Lestari: Pemakaian Kata Hormat dalam Bahasa Jawa—Studi Siswa dan Masyarakat Yogyakarta—.
3. 安田和彦「supaya/agar に導かれる節について」
4. 長南一豪「完了性をあらわす動詞接辞 ?kan」
5. 高地 薫「9月30日事件を巡る文学と歴史」

第41回（2010年）：

<テーマ発表> 「インドネシア語の文法研究」

趣旨説明（安田和彦）

発表1 佐々木重次「幾つかの新しいイラスト（図解文法）」

発表2 長南一豪「mau+受身の両義性について」

発表3 Sri Budi Lestari 「インドネシア語口語における'sama'の用法」

発表4 関昌也「私見構文論・動詞論」

<自由研究発表>

1. Edy Priyono: Sebuah Tinjauan atas Singkatan di Advertorial Kementerian RI.
2. 舟田京子「マレーシアにおける独立前後のマレー語の立場」
3. 野村亨「インドネシアの鉄道事情；現状と将来」

4. 大形里美「『近代派』イスラム組織ムハマディヤーの伝統と現代インドネシア・イスラム社会」
5. 相武知里「第二言語習得理論を応用したインドネシア語教材について」

<特別講演>

Dr. David Hill: Pengajaran Bahasa Indonesia di Universitas Australia: Situasi Sekarang dan Strategi Masa Depan.

第 42 回 (2011 年) :

<テーマ発表> 「日本のインドネシア語教育の活性化のために」

趣旨説明・発表 (森山幹弘 ; 降幡正志 ; 原 真由子)

<自由研究発表>

1. Andi Irma Sarjani 「インドネシア語の受動態と日本語の受身との対照」
2. Ari Santoso: 'Nama saya Sazae. Ini keluarga Saya.': Penerapan Pembelajaran Aktif di Kelas Bahasa Indonesia untuk Pemula.
3. 長南一豪 「インドネシア語の名詞句内の語順について」
4. 三宅良美 「インドネシアの英語借用語——雑誌の人生相談をケース・スタディーにして——」
5. 野村 亨 「蘭領東インド期の鉄道 1867—1941」
6. 大形里美 「インドネシアにおける女子割礼をめぐる状況～女子割礼をめぐる言説とその実践～」
7. Rakhmat Soleh: Pembelajaran Sastra Bandingan Indonesia-Jepang: Sebuah Pengalaman Mengajar Bahasa dan Sastra Indonesia di TUFUS.
8. Suyoto: Kolaborasi 'Dual System' dalam Penyelenggaraan Program BIPA: Model Kerja Sama Program Indonesia-Jepang.

9. Totok Suhardijanto ; Ivan Lanin: Tesaurus Daring Bahasa Indonesia: Sistem Penyajian dan Pengembangannya, serta Upaya Penentuan Relasi Makna Antonimi.